

支部便り

平成28年度軽金属学会関東支部工場見学会 Report of factory tour meeting by JILM Kanto Branch at 2016 year

山本 篤史郎*
Tokujiro YAMAMOTO*

平成28年8月8日(月)に軽金属学会関東支部主催の工場見学会が開催され、いすゞ自動車株式会社藤沢工場、日本フルハーフ株式会社厚木工場を見学した。企業関係者4名、学生および大学関係者22名と高山善匡関東支部長を含む関東支部運営委員7名の33名に加えて、神奈川県内の高校教諭2名にもご参加いただき、合計35名にご参加いただいた。湘南台駅で集合し、バスで見学先に向かった。

まず、普段我々が目している街中を走っているトラックについて説明が必要である。トラックはシャシーとボディを組み合わせることで完成する。シャシーとは運転室とエンジン、ボディを載せるフレームなどから構成されており、自走可能である。いすゞ自動車株式会社藤沢工場では、シャシーを主に生産している。一方、ボディは荷台や荷室を指し、自走できない。日本フルハーフ株式会社厚木工場では、トラックの荷室やコンテナ等を生産している。シャシーとボディを生産する会社が別々であることから、その組み合わせは多数存在する。今回は、トラックを構成するシャシーとボディ双方の生産現場を連続して見学することにより、アルミニウム材料が輸送機器の燃費向上に不可欠であることを再認識させられるまたとない機会となった。

いすゞ自動車株式会社藤沢工場では、工場の概要説明があり、会社紹介ビデオを見た後、トラックの製造ラインを見学した。乗用車の製造ラインでは大量生産を可能とするため、エンジンを始め多くの部品が共通化されており、作業もほぼ同じ内容である。ところが、トラックを構成するシャシーは用途に合わせて多数の部品を組み合わせることで生産される。燃費がコストを大きく左右する運送業界ではトラックに搭載するエンジンの大小から、ボディを載せるフレームの長さ、サスペンションの種類まで細かくカスタマイズできる。よって、トラック購入の際には事前に綿密な打ち合わせが必要となる。このように、トラックのシャシー工場ではオーダーメイド生産が行われている点が乗用車とは似て非なる点である。注文ごとに取り付ける部品の種類が異なるほか、乗用車とは異なり車体が大きいので、工場内を流れるシャシーの移動速度もゆっくりしていた。大手運送会社などから発注されたシャシーはここで塗装を済ませるものもあり、顧客との距離の近さを感じられる工場であった。

昼食後、日本フルハーフ株式会社厚木工場を見学した。シャシーとボディの多彩な組み合わせについて述べたように、ここでは様々なメーカーのシャシーが、発注者の用途に



図1 いすゞ自動車株式会社藤沢工場にて



図2 日本フルハーフ株式会社厚木工場にて

合わせたボディを搭載されるのを待っていた。高速自動車道でよく見かける横に長い凹凸状の筋の入ったアルミニウム合金製の荷室をはじめ、側面全体が開いて迅速に荷下ろしができる大型の荷室や冷蔵・冷凍機能を備えた荷室も生産されていた。荷台後部のリフトもここでシャシーに取り付けられる。ボディの種類は、シャシーと同様に多岐にわたる。おのずと、生産工程の大部分が手作業で行われる。また、トラックは購入者の目的に応じてカスタマイズされるため、中古でお目当てのトラックを購入することはなかなか難しいとうかがった。ビジネスでトラックが必要になったときは、自分好みの新品トラックを手作りで作ってもらうことになる。トラック運転手のトラックに対する熱い思い入れが少し理解できた気がする。

最後に、工場見学を受け入れていただいた、いすゞ自動車株式会社藤沢工場、ならびに、日本フルハーフ株式会社厚木工場の関係者の皆様には大変お世話になったので、改めて御礼申し上げます。